SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2007	3F展示室	2F展示室	B1F映像展示室	1Fホール
2	光と影 12月23日(土・祝)〜2月18日(日)	ようこそ。写真美術館へ! 2月3日(土)〜2月18日(日)	地球(ほし)の旅人 1月2日(火)〜2月18日(日)	恋人たちの失われた革命 1月2日(火)〜2月18日(日)
	平成18年度[第10回]文化庁メディア芸術祭　2月24日(土)〜3月4日(日) ※2月26日(月)は開館			
3	 "TOKYO" マグナムが撮った東京 3月10日(土)〜5月6日(日)	 夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 Ⅰ. 関東編 3月10日(土)〜5月6日(日)	第7回上野彦馬賞展 3月10日(土)〜3月18日(日)	 パラダイス・ナウ 3月10日(日)〜4月27日(金)
4			APAアワード2007展 3月31日(土)〜4月15日(日)	
			 天野尚写真展 4月21日(土)〜5月20日(日)	
5	 秋山庄太郎「吉永小百合」 「昭和」 写真の1945-1985 第1部 昭和20年代 オキュパイド・ジャパン 5月12日(土)〜6月24日(日)	 大地への想い 水越武写真展 5月12日(土)〜7月1日(日)	日本写真家協会展 5月26日(土)〜6月10日(日)	 地球交響曲第六番 4月28日(土)〜
6			世界報道写真展 6月16日(土)〜8月5日(日)	
7	第2部 昭和30・40年代① ヒーロー・ヒロインの時代 6月30日(土)〜8月19日(日)	 マーティン・パー ファッション・マガジン展(仮称) 7月7日(土)〜8月26日(日)		※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。
8	第3部 昭和30・40年代② 高度経済成長 8月25日(土)〜10月14日(日)		呼吸するカオス 亜州の視覚表現とデザイン展(仮称) 8月11日(土)〜10月8日(月・祝)	

ご利用案内	●休館日：毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日 ※ただし、2/26、4/30、5/1は開館)、年末年始 ●開館時間：10:00〜18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで
割引チケットの販売	お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。 詳しくはチケット売り場でおたずねください。

東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel.03-3280-0099／Fax.03-3280-0033
http://www.syabi.com

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。

東京都写真美術館ニュース「アイズ07」53号●発行日:2007年2月9日／企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係●印刷・製本:JTB印刷株式会社●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

©2007●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。

eyes

東京都写真美術館ニュース
[アイズ]

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE 2007

53

*01

作家インタビュー

"TOKYO" ―マグナムが撮った東京―

ロバート・キャパの発案のもと、アンリ・カルティエ=ブレッソン、ジョージ・ロジャーらが創設したフォトジャーナリスト集団『マグナム・フォト』は、今年で60周年を迎えました。日本人初のメンバーとして活躍し、マグナム・フォト東京支社・代表でもある写真家・久保田博二さんに、メンバーたちがとらえた「東京」と自身の撮影秘話について語っていただきました。

本展は約40人のマグナム・フォトのメンバーがさまざまな視点からとらえた東京をご紹介する展覧会です。東京出身の僕は戦争中の東京も、戦後、焼け野原でなにもなかった東京も知っています。それが、エネルギーのある国際都市へと大きく移り変わっていったのは、やはり大阪万博あたりからでしょうか。人口密度もさることながら、小笠原から奥多摩までという変化に富んだ土地柄、これだけスケールの大きな都市は世界でも数少ないと思います。

東京支社を設立して17年目を迎えますが、各国のメンバーたちは、ここを訪れると必ず東京を撮影していきますよ。大小さまざまな建築物がひしめきあい、エネルギーあふれ、渾然としたこの街を、つまらないと言った人はいませんでした。東京はそれほど興味のつきない場所なのです。

僕の作品に、『大葬の礼』があります（図版05）。これは、『ニューズウィーク』誌の仕事で、"自分の好きな場所から撮れ"と言われて撮りにいったものです。猛烈に寒い日でしてね、宮内庁からの規制も厳しくて、オーバーを着てはいけないし、脚立に立ってもいけないと言われました。そのため、僕は一番良い場所で撮影できるように一番乗りで駆けつけ場所取りをしました。そして5時間待って、撮影したのです。前日からトイレに行かなくてもいいように半日間は何も食べずに水分も摂りませんでした。くだらないことと思うかもしれませんが、このような報道写真を撮るためには重要なことです。結局、開始30分前くらいに現れた報道カメラマンたちにはなぜか脚立の使用が許され、みな、脚立の上から撮影をしていました。しかし、僕は迷わず地上からの目線で撮影しました。2度の世界大戦から高度経済成長期、そしていわゆるバブル経済期までの長い歴史を生きた昭和天皇。その最後をお見送りするという貴重な一瞬をとらえるためには、自分の目線の高さからでなくてはいけない、そう思ったからです。

マグナム創立60周年を記念する今回の展覧会では、僕の思い出の「東京」のほか、メンバーたちがとらえたそれぞれの「東京」の魅力や、知られざる姿を存分にご紹介いたします。

（インタビュー:2006年12月東京にて）

東京を撮った「マグナム・フォト」メンバーたち

まず、マグナムのメンバーとして、初めて日本を訪れたのが**ワーナー・ビショフ**でした。絵心のあるビショフは雪の日の明治神宮を、まるで墨絵画のような作品に仕上げています。マグナムの創設者であり、古くから日本人との交流があった**ロバート・キャパ**は、'54年「カメラ毎日」の創刊を記念して初来日し、19日間の滞在期間のなかで多くの日本の風景を撮影しました。そのなかの1枚である東京駅のホームを写した作品は、当時の日常のひとコマを印象的に写しだしています。そののちキャパはインドシナへ渡り、帰らぬ人となってしまいました。

戦後から現代に至るまで、変わり行く「東京」を見てきたのは、ジェームス・ディーンの写真で有名な、**デニス・ストック**でしょう。ストックが初めて日本にやって来たのは'56年のことです。当時、日本文化の象徴でもある舞妓の姿などを撮影していた彼は90年代のお台場に大変興味を持ち、最近では汐留の高層ビル群を精力的に撮影しています。

出版報道写真家として活躍していた**バート・グリン**は、'68年に富士山や京都をはじめ日本の印象をまとめた写真集を出版。東京ではキャバレーの店先やスーパースター、長島茂雄をモデルに昭和の時代を彩りよく捉えています。

携帯電話やプリクラをはじめ、日本のキャラクター文化を独自の視線でシニカルに撮影したのは**マーティン・パー**でした。大手家電センターの商品陳列棚に飾られた造花の桜を作品に収めた理由は、満開の桜を撮ろうと予定していた折、一足先に桜が散ってしまったためだというエピソードもあります。一方、写真学校で学んだ後、10年間にわたり生まれ育ったニューヨークを撮り続けた**ブルース・ギルデン**は、新宿や浅草を中心に下町に暮らす人々の、エネルギッシュと悲哀の混在する内面を作品に封じ込めています。

ロンドン在住の**クリス・スティール=パーキンス**は、夫人が日本人ということもあって、年に2～3回は来日をするという日本通としても知られています。アフガニスタンなど、戦禍のなかでの撮影を中心として活躍するクリスですが、意外にも彼が東京でとらえた被写体は困惑した表情で泥パックを施される犬や、パンダの着ぐるみを着た人間の後姿など、どこか滑稽で、物悲しさを感じさせます。

世界各地で活躍する「マグナム・フォト」の写真家たち。そんな彼らを魅了した街は、おそらく世界でも数少ないのではないでしょうか?

あなたもこの機会に是非、マグナムの視線で東京を感じてみてください。

（※出品予定作家は次頁をご覧ください）

*表紙 ゲオルギィ・ピンカソフ 1996年
*01 クリス・スティール=パーキンス 2003年
*02 デニス・ストック 1956年
*03 ロバート・キャパ 1954年
*04 マーティン・パー 2000年
*05 久保田博二 1989年
*06 ブルース・ギルデン 1999年
*07 ワーナー・ビショフ 1951年
*08 バート・グリン 1961年

3F 3階展示室 Exhibition Gallery

※友の会割引 ※三越カード割引 ※アトレカード割引

≫3月10日㊏ → 5月6日㊐
※4月30日(月・祝)5月1日(火)は開館します

“TOKYO” マグナムが撮った東京

TOKYO seen by Magnum Photographers

□ 一般 1,000(800)円 □ 学生 800(640)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円
( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／マグナム・フォト東京支社／NHK情報ネットワーク
○後援：米国大使館／ブリティッシュ・カウンシル／フランス大使館 ○助成：(財)地域創造
○協力：INAX／ニコン／ニコンカメラ販売／日本ヒューレット・パッカード／フレームマン

詳細ホームページ http://www.syabi.com./schedule/schedule.html

創立者のロバート・キャパとデビッド・シーモア 撮影：アンリ・カルティエ=ブレッソン

マグナム・フォト2006年総会より ロンドン 撮影：ルネ・ブリ

マグナム・フォトは、1947年、ロバート・キャパ(ハンガリー)の発案で、アンリ・カルティエ=ブレッソン(フランス)、ジョージ・ロジャー(イギリス)、デビッド・シーモア“シム”(ポーランド)らが創設したフォトジャーナリストの集団です。「マグナム」の名は、シャンペンの大瓶に由来するといわれています。写真家の権利と自由を守り、主張することを目的として、現在では約50名のメンバーが、ドキュメンタリーだけでなく、コマーシャル、ファッション、コーポレイトなど様々な分野でグローバルな活動を続けています。
本展は創立60周年記念展として、戦後日本を訪れた数多くのマグナム・フォトの写真家たちによって、「東京」というメガシティがいかに写し撮られてきたかを、1950年代から2005年までのモノクロ、カラーによる約150点の写真作品と映像作品で展開いたします。

■出品予定作家
アバス、ブルーノ・バルベイ、イアン・ベリー、ワーナー・ビショフ、ルネ・ブリ、ロバート・キャパ、アンリ・カルティエ=ブレッソン、アントワン・ダガタ、レイモン・ドゥバルドン、ニコス・エコノモポロス、エリオット・アーウィット、マルティーヌ・フランク、スチュワート・フランクリン、ポール・フスコ、ブルース・ギルデン、バート・グリン、ジム・ゴールドバーグ、ハリー・グリエール、デビッド・アラン・ハービー、トーマス・ヘプカー、フィリップ・ジョーンズ=グリフィス、リチャード・カルバー、久保田博二、ギィ・ル=ケレック、ピーター・マロー、スーザン・メイゼラス、ウェイン・ミラー、インゲ・モラス、トレント・パーク、マーティン・パー、イーライ・リード、ゲオルギィ・ピンカソフ、ミゲル・リオ=ブランコ、クリス・スティール=パーキンス、デニス・ストック、アレックス・ウェブ、パトリック・ザックマン

※出品作家は変更される場合があります

久保田 博二 ●くぼた ひろじ
1939年東京に生まれる。早稲田大学経済学部を卒業後、写真家を志し渡米。1971年『マグナム・フォト』に参画。4年の歳月をかけて日本各地を取材した写真集「JAPAN」が話題に。マグナム・フォト東京支社・代表。

○会期中マグナム写真家による「アーティストトーク+ギャラリーツアー」の開催を予定しています。
日時：3月10日(土)・3月11日(日)／17:00〜19:00

B1.1.2.3F B1.2.3階展示室・1階ホール Images & Technology/Exhibition Gallery/Hall

≫2月24日㊏ → 3月4日㊐

平成18年度[第10回]

文化庁メディア芸術祭

□ 入場無料

○主催：文化庁メディア芸術祭実行委員会(文化庁・CG-ARTS協会) ○協力：東京都写真美術館

詳細ホームページ http://plaza.bunka.go.jp/ ◎お問い合せ≫ 文化庁メディア芸術祭事務局(CG-ARTS協会) 0120-454536

*01

*02

*03

「文化庁メディア芸術祭」は、新しい表現技法を開拓して制作した創造性あふれるメディア芸術作品および、作者を顕彰するとともに、その創作活動を支援し、広く紹介していくメディア芸術の祭典です。10回目を迎えた今回は、国内外から応募された1808作品の中から、“アート”、“エンターテイメント”、“アニメーション”、“マンガ”の4部門の受賞・推薦作品165点をご紹介いたします。また、同時開催イベントでは学生を対象としたデジタルアートコンテスト「第12回学生CGコンテスト受賞作品展」や、海外のメディアアートフェスティバルの優秀作品を紹介する「Media Art in The World」、日本の大学や研究機関でおこなわれている最新のデジタルメディア技術の研究を紹介する「先端技術ショーケース'07 未来のアート表現のために」や、研究者によるデモンストレーションやカフェ形式での座談会を交え、知的資産を電子的に保存・活用していくための新たな基盤技術を展示する「デジタル知的資産の創造と学びの環境作り」も開催。わが国のメディア芸術の振興を図ることを目的としています。

*04

*01〈マンガ部門〉大賞：かわぐち かいじ「太陽の黙示録」
*02〈エンターテインメント部門〉大賞：神谷 英樹「犬神」
*03〈アート部門〉大賞：木本 圭子「Imaginary・Numbers 2006」
*04〈アニメーション部門〉大賞：細田 守「時をかける少女」

○上映会・シンポジウム・イベント(1階ホール)
上映会やメディア芸術に関するさまざまなシンポジウムを開催します。
詳細は http://plaza.bunka.go.jp まで。

■同時開催イベント
○「第12回学生CGコンテスト受賞作品展」(主催：CG-ARTS協会)
○「Media Art in the World」(主催：CG-ARTS協会)
○「先端技術ショーケース'07 − 未来のアート表現のために −」(主催：文部科学省、独立行政法人科学技術振興機構)
○「デジタル知的資産の創造と学びの環境作り」(主催：「知的資産のための技術基盤」実施委員会)

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

2F 2階展示室 Exhibition Gallery

■友の会無料　■三越カード割引　■アトレカード割引

≫3月10日㊏ ➔ 5月6日㊐
※4月30日(月・祝)5月1日(火)は開館します

夜明けまえ

知られざる日本写真開拓史 Ⅰ. 関東編

Dawn in Japanese Photography

□一般 500(400)円　□学生 400(320)円　□中高生・65歳以上 250(200)円
(　)は20名以上の団体および上記カード会員割引料金　※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※東京都写真美術館友の会会員は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都／東京都写真美術館／読売新聞東京本社／美術館連絡協議会
○協力：日本大学芸術学部
○協賛：花王株式会社

詳細ホームページ http://www.syabi.com./schedule/schedule.html

1853年ペリー来航によって日本にもたらされた「写真」。
芸術表現に用いられる以前の写真は、一体どのようなものだったのか。

本展は日本全国の美術館、博物館、資料館等が所蔵する幕末～明治期の写真・資料を調査し体系化する初めての試み「知られざる日本写真開拓史」シリーズの第一弾です。

幕末の開国と時を同じくして、日本にもたらされた写真。芸術作品に用いられる以前の写真は、いったいどのようなものだったのでしょうか。重要文化財「黒川嘉兵衛像」は日本最古の写真の1枚で、ペリー艦隊の従軍写真師エリファレット・ブラウン・Jrが撮影したものです。当時、写真は西洋文明の象徴でした。やがて、横浜や長崎などが開港し、訪日する写真師との関わりから、江戸の鵜飼玉川(ぎょくせん)や開港地の上野彦馬、下岡蓮杖(れんじょう)など、日本人の写真師が各地に現れます。そして、幕末～明治の西洋的近代化へ向かう日本および日本人を活写し、その技術はさらに次の世代へと伝えられていきました。本展では、現存する貴重なオリジナル写真作品・資料を〈1.であい〉、〈2.まなび〉、〈3.ひろがり〉の3部構成で展開いたします。出品作品は、当館収蔵作品のほかに、公的機関を中心に関東圏の1500ヵ所へ調査し、所蔵が明らかになった多くの未公開作品を含みます。幕末～明治時代という激動の時代に写され、今日まで現存する貴重な古写真に触れる希有な機会となることでしょう。本シリーズは引き続き、写真の伝搬と普及についての調査・研究をすすめ、「Ⅱ.四国・九州編」、「Ⅲ.中部・関西編」、「Ⅳ.北海道・東北編」、「総集編」と展覧会を開催し、日本中に現存する初期写真の現状を探ることを予定しています。

「題不詳(儀太夫節)」下岡蓮杖／幕末～明治時代初期／鶏卵紙、人工着色／東京都写真美術館蔵

「題不詳(愛宕山から見た江戸のパノラマ)」フェリーチェ・ベアト／元治元(1864)年頃／鶏卵紙／東京都写真美術館蔵

「題不詳(甲冑姿の河津伊豆守)」ナダール／文久2(1862)年／鶏卵紙／東京都写真美術館蔵

「赤十字社出張仮病院丹羽郡小折村ニ於テ震災重傷患者治療ノ現況」中村牧陽／明治24(1891)年／鶏卵紙／日本赤十字看護大学資料室蔵

■出品予定作家

上野彦馬、鵜飼玉川、江木松四郎、江崎禮二、小川一真、下岡蓮杖、鈴木真一、武林盛一、田中武、田中松太郎、中村待乳、中村牧陽、二見朝隈、松崎晋二、丸木利陽、横山松三郎、エリファレット・ブラウン Jr.、フェリーチェ・ベアト、ナダール、ピエール・ジョセフ・ロシエ、スティルフリード&アンデルセン ほか予定

※出品予定作品は諸事情により変更される場合があります。

「黒川嘉兵衛像」エリファレット・ブラウン・Jr／安政7(1854)年／ダゲレオタイプ／日本大学芸術学部寄託／重要文化財

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

2F 2階展示室 Exhibition Gallery

※友の会割引　※三越カード割引　※アトレカード割引

≫5月12日㈯→7月1日㈰

「大地への想い」水越武写真展

□一般 800(640)円　□学生 700(560)円　□中高生・65歳以上 600(480)円

(　)は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金

※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：財団法人東京都歴史文化財団　東京都写真美術館

○協力：株式会社ニコン／ニコンカメラ販売株式会社／富士フイルム株式会社／富士フイルムイメージング株式会社

詳細ホームページ　http://www.syabi.com./schedule/schedule.html

*01

「生態系からみた地球」というテーマに基づき、国内外の高峰や壮大な自然の営みを地球規模で撮り続ける水越武。東京都写真美術館では、このたび世界的に活躍する水越の40年以上に及ぶ作家生活のなかから厳選した代表作品に、近作を加えた200点を展観する「大地への想い 水越武写真展」を開催いたします。水越武は1938年（昭和13年）に愛知県豊橋市に生まれました。幼い頃から山の自然に親しみ、20代の頃、ナチュラリスト・田淵行男の写真集『高山蝶』に感銘を受け、写真の道に進むことを決意。田淵から山に対するひたむきな姿勢や、自然をリアルに直視する洞察力を学びました。そして、1971年に発表した「穂高」のシリーズでは、厳然たる山の神髄を示し、山岳写真界にその名を深く刻むこととなりました。

水越の視点は国内外の高峰から自然界の動植物に移り、日本の原生林や世界各地の熱帯雨林、近年では急激な温暖化で後退がすすむ世界各地の氷河など、地球全体をとりまく生態系がテーマとなっています。水越の「自然の多様性こそが、地球を美しく彩り、豊かな表情を与え、美しく調和させる」という言葉は、地球に生きる私たち人類が、地球を常に視野に入れて生きてゆかなくてはならないというメッセージにほかなりません。

水越は展覧会の開催にあたりこのようなメッセージを綴っています。「好奇心のおもむくまま、少しでも高く、遠くへとひたすら自分の足で歩き、私は夢や憧れの軌跡となる写真を持ち帰った。遠くには地平線があり、高くには山があった。どこを歩いていても頭の隅には大地への想いが常にあった。地球はなんと美しく、無限の表情を持ち、多様性に富んだ不思議な生きものを抱え込んでいることか。人間にとって母なる星である地球は、ひとつの生命を持った有機体であるとするジェームス・ラブロックの“ガイア”の考えもある。大気、海洋、大地が息づいて生きているというのだ。人類の明日を脅かす環境問題は、国境を取り払って地球規模で取り組んでいく必要がある。それにはかけがえのない惑星“地球”を視野に入れた自然観を持たなければならない。言い換えれば、いま各自が新しい地球観を持つべき時代がやって来たのではないか、と私は考える」

水越の豊饒な写真世界を一望する本展は、地球規模ですすむ自然破壊への警告だけではなく、生命の多様性と美しさを呈する作品として、私たちに深い感動を与えてくれるのではないでしょうか。

*02

*03

*04

*01「オオワシ」知床　2003年
*02「マハカム川」ボルネオ　1994年
*03「雨期のアマゾン河源流」エクアドル　1996年
*04「ホーク」インド　1979年

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

3F 3階展示室 Exhibition Gallery

※友の会無料　※三越カード割引　※プトレカード割引

≫5月12日㈯→6月24日㈰

昭和 ―写真の1945-1985―

第1部「オキュパイド・ジャパン（占領下の日本）」昭和20年代

□一般 500（400）円　□学生 400（320）円　□中高生・65歳以上 250（200）円

（　）は20名以上の団体および上記カード会員割引　※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

※東京都写真美術館友の会会員は無料　※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都／東京都写真美術館

詳細ホームページ http://www.syabi.com./schedule/schedule.html

長野重一 「夜のプール」「ドリームエイジ」より 1958年

牛腸茂雄 シリーズ「日々」より 1967-70年

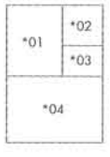
元号が「昭和」から「平成」に代わり、早くも20年近い年月が経っています。戦後、日本はさまざまな変化を遂げました。それは焼け野原からの復興であり、人びとの生活の変化でもありました。そんな様子を写真家たちはどのように記録し、表現していったのでしょうか。本展では東京都写真美術館の収蔵作品の中から、4期に分けて「昭和」を象徴する約600点の写真を選び、構成いたします。

第1部では、戦争の惨禍の後、占領下におかれていた昭和20年代を舞台に、新しい価値観を持ってこの時代をとらえた「オキュパイド・ジャパン（占領下の日本）」を、第2部の「ヒーロー・ヒロインの時代」では、力道山から長島茂雄、吉永小百合など、エネルギーにみちあふれた昭和30～40年代のヒーロー・ヒロインの姿を通じ、この時代を表現します。そして第3部には、同じく昭和30年～40年代に高度成長期を迎え、急速に様変わりする人びとの生活や都市の風景をリアリズム的に捉えた写真から、より内的な世界を表出するような写真までを取り上げます。昭和50年代以降から平成を迎える直前までの日本は、第4部「クロスカルチャー、クロスジャンル」で紹介いたします。戦後派世代が「ニューファミリー」と呼ばれ、世代構成の中心を担うようになったこの時代、客観的に風景を写しだす写真や現代美術との境界があいまいになり、表現や展示方法が従来のスタイルとは異なった写真が現れます。“写真”という媒体が記録した「昭和」を、多くの世代のかたにご覧いただきたいと思います。長期不況や少子高齢化など、さまざまな問題を抱える「平成」のいま、活気あふれ、激動に満ちた時代「昭和」が、東京都写真美術館の豊かなコレクションによってリアルに甦ります。

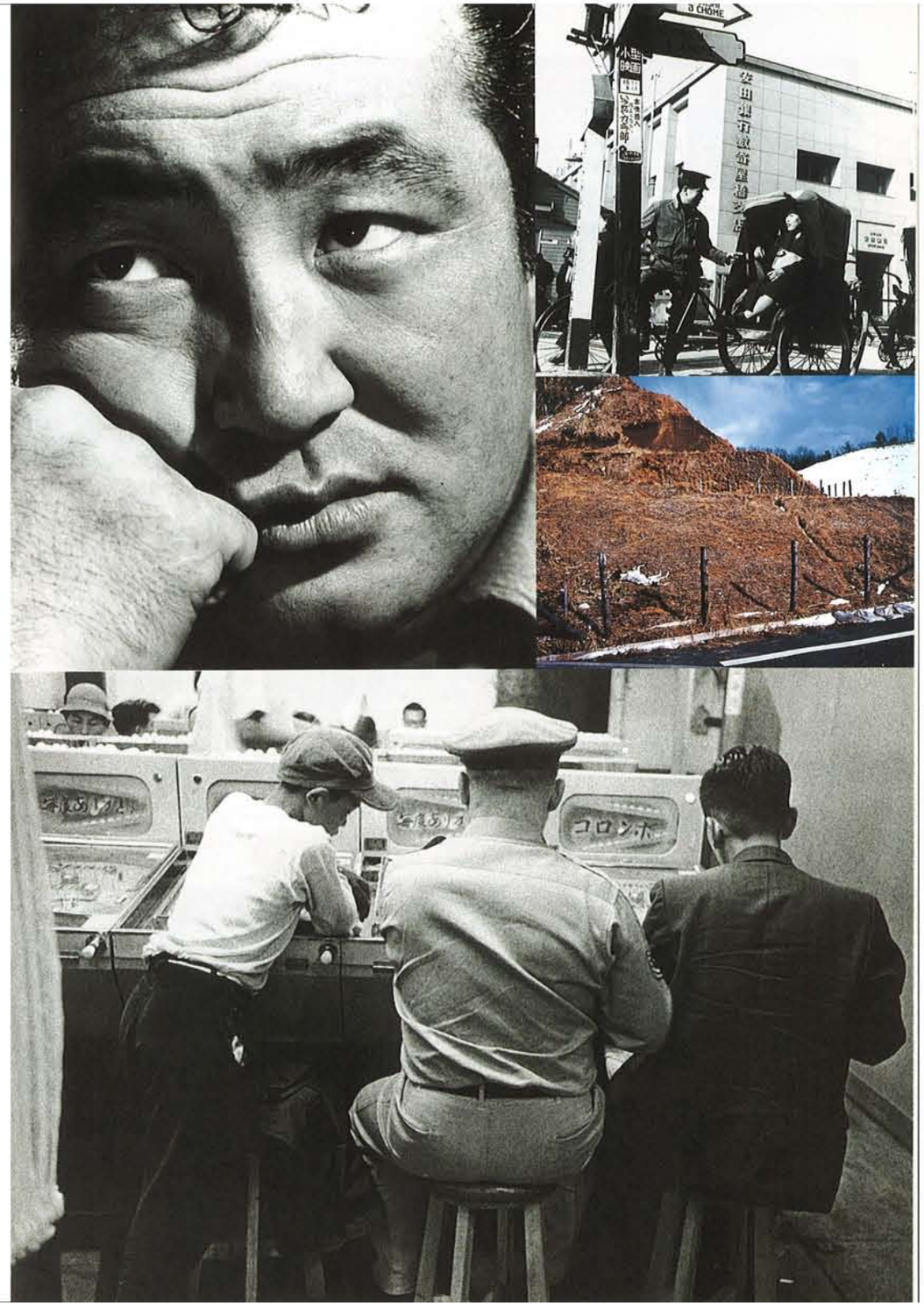
第2部
「ヒーロー・ヒロインの時代」昭和30～40年代 Part.1
≫6月30日㈯→8月19日㈰

第3部
「高度成長期」昭和30～40年代 Part.2
≫8月25日㈯→10月14日㈰

第4部
「クロスカルチャー、クロスジャンル」昭和50年代以降
≫10月20日㈯→12月9日㈰



*01 松島進「力道山」1951年
*02 林忠彦「カストリ時代」より 1948年
*03 小林のりお「東京都八王子市別所」シリーズ「ランドスケープ」より 1984年
*04 中村立行「日米競技」1948年頃



TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

B1F 地下1階展示室 Images & Technology Gallery

≫3月10日㊏→3月18日㊐

第7回上野彦馬賞展

九州産業大学フォトコンテスト受賞作品展

□ 入場無料

○主催：九州産業大学／毎日新聞社

詳細ホームページ：http://www.syabi.com.schedule/schedule.html

21世紀に羽ばたく若い写真家の発掘と育成を目的とした「上野彦馬賞―九州産業大学フォトコンテスト」。第7回目を迎えた今回のコンテストでは、過去最多となる一般部門1341点、高校生・中学生部門1311点の総計2652点の作品が全国から集まりました。是非、ご覧ください。

上野彦馬賞ジュニア大賞
「REAL」青柳 彩
中越高等学校

◎お問い合せ≫ 毎日新聞福岡本部事業部　092-724-7203

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

B1F 地下1階展示室 Images & Technology Gallery

≫3月31日㊏→4月15日㊐

※友の会割引 ※三越カード割引 ※アトレカード割引

第35回社団法人日本広告写真家協会公募展

APAアワード2007

□一般 500円　□学生 300円　□中学生以下・65歳以上 無料

○主催：社団法人日本広告写真家協会

詳細ホームページ：http://www.syabi.com.schedule/schedule.html

社団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2007」の入選作品約200点を一挙に展示いたします。今年度の公募展では、昨年度1年間に、プロの広告写真家によって制作され、実際に印刷媒体に掲載・流布した作品を公募した広告作品部門と、「愛」というテーマに添ったオリジナル写真を一般公募した写真作品部門をご堪能ください。

経済産業大臣賞
今井美奈「Dear Ruby」

◎お問い合せ≫ 社団法人日本広告写真家協会事務局　03-3543-3387

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

B1F 地下1階映像展示室 Images & Technology Gallery

※友の会割引 ※三越カード割引 ※アトレカード割引

≫4月21日㊏→5月20日㊐
※4月30日(月・祝)5月1日(火)は開館します

天野尚(あまのたかし)写真展 ―「佐渡」海底から原始の森へ―

□一般 700(560)円　□学生 600(480)円　□中高生・65歳以上 500(400)円

○主催：産経新聞社　○共催：東京都写真美術館

詳細ホームページ：http://www.syabi.com.schedule/schedule.html

日本列島の南北ほぼ中央、暖かい対馬海流と冷たいリマン海流との合流点に位置している佐渡島は、南方系から北方系まで、さまざまな植物が自生し、さながら日本の自然の縮図ともいえる独特の自然環境を有しています。また、変化に富んだ海岸線や里山など、人の暮らしと自然が共存する日本の原風景が、今なお色濃く残されています。天野尚(あまのたかし)は、10年以上にわたって佐渡を訪れ、水深40mの海底から海抜1,172mの最高峰金北山の山頂まで、5×7インチ判の大判カメラを中心に、11×14インチ判や8×20インチ判の超大判カメラまでを駆使してこの佐渡島の様々な表情を撮影してきました。その過程で、地元島民にさえほとんど知られていない原生林や、屋久島にも劣らない巨大杉、絶滅に瀕している希少な山野草など、これまで誰も見たことのなかった佐渡の姿をとらえることができました。本展は、高度経済成長に伴い、全国規模で国土の開発が進み、その代償に自然が失われていった日本各地に比べて、人々の暮らしのそばに今も身近な自然が残っている佐渡の原風景―「人」と「自然」との共生を約70点の写真で紹介します。

幹周り11mを超える巨大杉。その樹齢は千年以上だが、あまりにも古いため正確な樹齢を知る人はいない。2006年6月

写真の技法解説　第1回

展示室の作品の多くには、タイトルや年代、技法や所蔵先などを記載したキャプションが添えられています。ここでは、お客様から特にご質問の多い「技法」について、2回に分けて簡単に解説します。その年代や制作工程がわかると、より作品の背景が想像でき楽しく鑑賞できます。

解説：金子隆一（東京都写真美術館 専門調査員）

Technique 01 **ダゲレオタイプ** Daguerreotype 1830年代末～1860年代前期	ルイ・ジャック・マンデ・ダゲール（仏）が1839年に公表した世界最初の実用的な写真術。銀メッキをした銅板にヨウ素の蒸気をあてて光に感じるようにして撮影します。現像は水銀の蒸気で行います。日本では「銀板写真」と称していました。大変シャープな画像ですが、一回の撮影で1点しか作ることはできません。
Technique 02 **カロタイプ** Calotype 1830年代末～1850年代後期	ウイリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット（英）が1840年に発明した、紙をベースにしたネガ／ポジ方式による写真術で、これにより写真の複製が可能になりました。銀の化合物を染みこませて感光性を与えた紙をカメラに装着して撮影をしたのち現像して陰画（ネガ）をつくります。それを単塩紙に密着させて太陽光で焼きつけて陽画（ポジ）をつくります。
Technique 03 **アンブロタイプ** Ambrotype 1850年代初期～1880年代初期	フレデリック・スコット・アーチャー（英）が1851年に発明した、ガラス板に感光乳剤を引き、それが乾かない内に撮影・現像をする湿式コロディオン方式による写真術。通常はネガを作るための方式ですが、わざと露出不足で撮影したガラス板ネガをそのままポジとして見るのがアンブロタイプです。この方式によるネガ像は光のあたったところが灰白色になるので、ガラス板の下に黒い布などを敷くとポジ像として見えてきます。
Technique 04 **単塩紙** Salted paper 1830年代末～1860年代初期	タルボットが1835年に発明をした、感度の低い印画紙であるフォトジェニック・ドローイング紙と同じ方式で、カロタイプの印画紙でもあります。紙に食塩水を染みこませ硝酸銀を反応させ、光に感じる物質である塩化銀をつくります。ネガを密着させて太陽の光で焼き付けると赤褐色の画像が現れます。現像が必要のないいわゆる日光写真です。
Technique 05 **鶏卵紙** Albumen paper 1850年～1890年代中期	ルイ・デジレ・ブランカール・エヴラール（仏）が、1850年に発明をした19世紀を通してもっとも一般的に使われた印画紙。卵の白身に食塩を混ぜ紙に塗り、乾いた後に硝酸銀溶液を塗り、光に感じるようにします。ネガを密着させ、太陽の光で焼き付けると赤褐色の画像が現れます。現像は不要です。日本を訪れた外国人観光客におみやげとして売られた「横浜写真」は、この上にカラー写真と見まごうばかりの手彩色がなされています。
Technique 06 **ゼラチン塩化銀紙** Gelatin printing out paper 1880年代末～1910年代初期	ウィリアム・アブニー（英）が1882年に紹介をしました。ゼラチンに光に感じる塩化銀を混ぜ、紙に塗って乾かし、ネガを密着させ太陽の光で焼き付け、現像は必要ありません。いわゆる日光写真です。この印画紙は19世紀末には工場で大量生産され、「P.O.P.（Printing Out Paperの略称）」と名付けられ売り出されました。
Technique 07 **ゼラチン・シルバー・プリント** Gelatin silver print 1880年代中期～現在	19世紀末に発明され、今日でも普通に使われている白黒写真の印画紙の総称。ゼラチンに臭化銀などの光に感じる物質を混ぜ、紙に塗って乾かしますが、普通は工場で製造されています。この印画紙はとても光に感じやすいので、暗室で露光させたあと現像液に入れて現像します。この印画紙の出現によって小さいネガからの引き伸ばしが簡単になりました。
Technique 08 **サイアノタイプ** Cyanotype 1842年～1970年代	ジョン・フレデリック・ハーシェル（英）が1842年に、自分の書いたものを簡単にコピーする方法として発明しました。青いきれいな画像が特徴で、日本では「青写真」と称していました。光に感じる鉄の化合物を紙や布に塗り、乾かしたあとネガを密着させて太陽の光で焼き付け、水で現像します。

※年代は、その技法が多く使用された時期をあらわしています

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE VOL.53

1F 1階ホール Hall Cinema Information

※友の会割引 ※三越カード割引 ※アトレカード割引

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

詳細ホームページ http://www.syabi.com./schedule/schedule.html ※時間等変更になる場合がございます。最新の情報はホームページをご覧ください。

Film Series Vol.29 パラダイス・ナウ

世界各国で論争が勃発!
"自爆テロを選択するしかなかった"若者たちの物語

パレスチナ暫定自治区のヨルダン川西岸地区の町、ナブルス。人々は貧困に苦しみ、時折、ロケット爆弾が飛んでくるこの地で、幼馴染みのサイードとハーレドは自動車修理工として働いている。未来も希望もなく、貧しい家族の生活を助けるためにできることは何もない。二人の生活にあるのは占領という事実だけだった。パレスチナの若者が自爆攻撃に向かう48時間の葛藤と友情を描いた問題作。

○上映スケジュール：3月10日(土)～4月27日(金)
○上映時間：10:30／12:40／14:50／17:00／19:00
○料　　金：一般 1,800円／学生 1,500円
中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

アップリンク／03-6821-6821／www.uplink.co.jp/paradisenow/

Film Series Vol.30 地球交響曲第六番

母なる星・地球(ガイア)が生命体だったら…私たち人類はその心、すなわち想像力の荷い手なのかもしれない

地球の未来にとって示唆にあふれたメッセージを持つ賢人たちにインタビューをしたオムニバス・ドキュメンタリー映画「地球交響曲」。シリーズ第6弾となる最新作では、「全ての存在は響きあっている」をテーマに、この世の全ての存在をつなぐ、耳には聴こえない音楽(虚空の音)を描き出します。38億年の歳月を生き続ける地球が刻々と奏でるハーモニーを「音を観て光を聴く」旅としてお楽しみください。

○上映スケジュール：4月28日(土)～
○上映時間：10:30／13:15／16:00／18:40
○料　　金：一般 1,800円／学生 1,500円
中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

龍村仁事務所／050-5527-4578／http://gaiasymphony.com

ミュージアムショップ『ナディッフ バイテン』1F

NADiFF ×10

◎お問い合せ:
「ナディッフ バイテン」
直通 03-3280-3279
www.syabi.com/shop/shop.html

Bag

だんだんと暖かくなって外出が増えるこの季節、ニューショッピングバッグはいかがですか?小さく折りたためて軽くて丈夫、色も豊富に揃っています。
大)¥3,780(税込)
小)¥2,940(税込)

カフェ『シャンブル クレール～明るい部屋～』1F 2F

chambre claire

◎お問い合せ:
カフェ「シャンブル クレール」
直通 03-5798-2218
www.syabi.com/cafe/cafe_01.html

Chocolate

前回大変ご好評いただいたベルギーチョコを古都ブリュージュからお届け。芳しいカカオの香りとほどよい甘さ、深みとなめらかさは伝統的な製法で仕上げた本物の味わいです。
ベルギーチョコレート各種
1個¥200(税込)

維持会員 Membership

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。
※詳しくはHPをご覧ください。http://www.syabi.com/Membership.html

●特別維持会員
株式会社アイデム
キヤノン株式会社
株式会社資生堂
東京電力株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社リコー

●維持会員
株式会社I&S BBDO
株式会社アサツーディ・ケイ
旭化成株式会社
朝日新聞社
朝日生命保険相互会社
アサヒビール株式会社
朝日放送株式会社
アップルコンピュータ株式会社
アデコ株式会社
エスエス製薬株式会社
株式会社NHKアート
株式会社NHKエデュケーショナル
株式会社NHKエンタープライズ
株式会社NHKプロモーション
株式会社NTTデータ
株式会社NTTドコモ
NTT都市開発株式会社
エルメスジャポン株式会社
株式会社大塚商会
株式会社大林組
奥村印刷株式会社
オムロン株式会社
オリックス株式会社
オリンパス株式会社
株式会社オンワード樫山
科研製薬株式会社
カシオ計算機株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社角川書店
カトーレック株式会社
カルビス株式会社
キッコーマン株式会社
株式会社紀伊國屋書店
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
株式会社キューンコミュニケーションズ
株式会社ぎょうせい
共同印刷株式会社
社団法人共同通信社
協和醗酵工業株式会社
キリンビール株式会社
株式会社講談社
株式会社光文社
株式会社国書刊行会
株式会社コーセー
コダック株式会社
コニカミノルタホールディングス株式会社
株式会社ザ・アール
サッポロホールディングス株式会社
佐藤製薬株式会社
三共株式会社
産経新聞社
サントリー株式会社
株式会社ジェイアール東日本企画
ジェイティービー印刷株式会社
株式会社実業之日本社
清水建設株式会社
株式会社写真弘社
シャネル株式会社
株式会社集英社
株式会社主婦と生活社
株式会社主婦の友社
瞬報社写真印刷株式会社
株式会社小学館
松竹株式会社
信越化学工業株式会社
株式会社新潮社
株式会社スタジオジブリ
株式会社スタッフサービス・ホールディングス
住友化学株式会社
株式会社生活の友社
セイコー株式会社
株式会社青春出版社
積水ハウス株式会社
株式会社絶対空間
セントラル警備保障株式会社
全日本空輸株式会社
ソニー株式会社
第一建築サービス株式会社
第一法規株式会社
大成建設株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社竹中工務店
株式会社タムロン
株式会社丹青社
株式会社中央公論新社
中外製薬株式会社
株式会社ティー・ビー・オー
株式会社テー・オー・ダブリュー
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
電源開発株式会社
株式会社電通
東亜建設工業株式会社
東京ガス株式会社
東京急行電鉄株式会社
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
株式会社東京スタデオ
東京綜合写真専門学校
東京テアトル株式会社
株式会社東京ドーム
株式会社東京放送
東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
株式会社東芝
東宝株式会社
株式会社東北新社
株式会社徳間書店
図書印刷株式会社
戸田建設株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社ニコン
日外アソシエーツ株式会社
日産自動車株式会社
株式会社NIPPOコーポレーション
日本オラクル株式会社
株式会社日本カメラ社
日本経済新聞社
日本興亜損害保険株式会社
株式会社日本廣告社
社団法人日本広告写真家協会
日本写真印刷株式会社
社団法人日本写真家協会
社団法人日本写真協会
日本写真芸術専門学校
日本写真作家協会
社団法人日本写真文化協会
日本大学芸術学部
日本たばこ産業株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本ハム株式会社
日本ヒューレット・パッカード株式会社
株式会社ニッポン放送
日本油脂株式会社
日本ロレックス株式会社
株式会社博報堂
ぴあ株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
光写真印刷株式会社
ヒノキ新薬株式会社
株式会社ファーストリテイリング
株式会社ファンケル
富国生命保険相互会社
富士重工業株式会社(スバル)
富士ゼロックス株式会社
株式会社フジテレビジョン
富士フイルム株式会社
株式会社扶桑社
株式会社ブリヂストン
株式会社プリンスホテル
株式会社フレームマン
株式会社文藝春秋
株式会社ベネッセコーポレーション
ペンタックス株式会社
株式会社ホテルオークラ
株式会社堀内カラー
本田技研工業株式会社
毎日新聞社
株式会社マガジンハウス
松下電器産業株式会社
マミヤ・デジタル・イメージング株式会社
丸善株式会社
三井倉庫株式会社
株式会社三越
三菱地所株式会社
武蔵大学
森ビル株式会社
モルガン・スタンレー証券株式会社
モンブラン ジャパン株式会社
ヤマトロジスティクス株式会社
UFJニコス株式会社
ユニリーバ・ジャパン株式会社
横河電機株式会社
株式会社吉野工業所
株式会社ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン株式会社
株式会社ワコール

(平成19年1月現在・五十音順)

友の会 Suppoter

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引、写真美術館ニュースeyesの送付をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もございます。開館時間中(10:00～18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

○受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
○会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問合わせください。
TEL:03-3280-0099

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中は何度でもご観覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
共催展・企画展	割引 ※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
カフェ	ブレンドコーヒー、ダージリン紅茶を200円引き ※詳細はお尋ねください
その他	○写美NEWS「eyes」送付 ○1階ホール(実験劇場)の割引 ○ナディッフ本店(表参道)で輸入商品1,000円以上のお買上につき5%割引(除外品あり) ○ロゴス渋谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など